

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1069 2009年4月号

もり 四国銀行との連携による多様な森林づくり活動



四国森林管理局では、四国銀行と連携して、高知県香美市の国有林において、無花粉スギ、少花粉スギを植栽しました。

【詳細は2頁に掲載】



「枯れないで、育ててね」と約六〇名が植樹に参加

四国銀行との連携による多様な森林づくり活動
 無花粉スギ、少花粉スギを植樹
 〔指導普及課・嶺北森林管理署・森林技術センター〕



四国森林管理局では、四国銀行（青木章泰頭取）と連携して、三月七日に、高知県香美市の穴内川ダムの湖畔にある立割不寒冬山国有林（嶺北森林管理署管内）において、無花粉スギ、少花粉スギを植樹する森林づくり活動を行いました。

この活動は、近年、国民的な課題となっているスギ花粉症対策の取組の一環として、また、四国銀行が地方銀行有志と連携して取り組んでいる地域の森づくり（日本の森を守る地方銀行有志の会）を支援する取組として実施したものです。

当日は、約六〇名の行員とその家族の方が参加し、はじめ



に、森林内と森林以外の土壌を比較した水源かん養機能の実験をしてみました。森林内の土壌は、水を流してもきちんと浸透するのに対し、森林以外の土壌は、表面を流れる水が多く、浸透しないその違いに驚いていました。

また、植樹箇所は、森林技術センターの「皆伐跡地における針広混交林化への更新技術の開発」の試験地であり、その取組内容について説明しました。

その後、通常のスギと無花粉スギ、少花粉スギの違いについて説明するとともに、植樹の方法について説明し、一一一本の



無花粉スギ、少花粉スギを植樹してもらいました。

参加者は、初めて植樹を行う人が多いにもかかわらず、協力し合いながら短時間で済ませてまいりました。

最後に、四国銀行の青木頭取から、「今後も、地域の企業の一員として社会貢献を果たしてしていくため、このような環境保全活動を継続していきたい。」との挨拶があり、森林づくり活動を終えました。

平成二十年度国有林モニター会議を開催
 〔企画調整室〕

二月二十三日、四国森林管理局において、「平成二十年度国有林モニター会議」を開催しました。

国有林モニターは、国有林野

事業の運営等について幅広い国民の意見、要望等を聴取し、これらを開かれた「国民の森林」に相応しい管理経営に役立てるため、四国在住の二十六名の方に依頼しています。

会議では、出席された十一名の国有林モニターの皆様と、国有林モニターとなった感想や国有林に期待すること等について、活発な意見交換を行いました（主な意見等は次のとおり）。

○子どもに森林での体験学習の機会を作って欲しい。

↑四国局では夏休みの期間を「環境教育推進月間」とし、高知市内の延べ八百人の子どもたちを対象に森林教室等を行っています。また四万十川森林環境保全ふれあいセンターでも、出前授業や国有林をフィールドとして森林教室等を行ってまいります。今後とも森林環境教育に力を入れていく所存です。

○剣山周辺の国有林における歩道や道標等の管理については、どこに相談すれば良いのか。

↑国有林内でお気づきの点があれば、森林管理署等へご相談下さい。剣山周辺の整備については、既設の古い看板等を中心に新しい看板に更新することや、歩道整備等を計画しています。

○小田深山の黒川溪谷等の貴

重な天然林は残して欲しい。

↑四国の国有林では、基本的にヤナセスギを除き、天然林の伐採を行っていません。貴重な天然林については適切に管理していく考えです。

○花粉症には医療面だけではなく環境面からの対策も必要だ。

↑厚生労働省、農林水産省、林野庁、林木育種センター等が連携し、発生源対策として、スギ・ヒノキ林からの広葉樹林化、針広混交林化やスギ・ヒノキの品種改良等に取り組んでいます。

四国局としても無花粉スギ等一一一本の植樹を計画（三月七日に実施済）しておりますが、植栽後の花粉の発生状況に関するデータ等を収集し、今後の対策に役立てていく考えです。

○国有林モニターとなってからマスメディア等で森林・林業をテーマとするニュース・番組に注目するようになった。

○森林の働きが非常に重要なものであると改めて認識した。

○間伐や下刈の体験をしたかった。

この会議で頂きました国有林モニターの皆様の見や感想等については、「国民の森林」としての管理経営に活かして参ります。

この会議で頂きました国有林モニターの皆様の見や感想等については、「国民の森林」としての管理経営に活かして参ります。



検討委員会の様子

林生熊系保護地域(愛媛森林管理署管内)、鷹取山植物群落保護林及び、ゆすはら一郷

保護林評価のための検討委員会を開催
 保護林の現状評価と今後の保全・管理を検討(指導普及課)

その二十年度の検討委員会を三月十三日に局で開催しました。今年度は、管内二十五箇所の保護林のうち、平成二十一年度及び二十二年度に地域管理経営計画等を策定する森林計画区内の保護林を対象に、石鎚山系森

四国森林管理局では、保護林の設定目的に照らした機能評価に必要なデータを収集し有識者からなる検討委員会において現状について評価を行うこととして、必要な措置を行うため、平成十九年度から「保護林モニタリング調査」と「保護林評価のための検討委員会」を実施しています。

土の森(四万十森林管理署管内)、石立山植物群落保護林、西熊山植物群落保護林(高知中部森林管理署管内)の五箇所でモニタリング調査を実施し、委託業務受注者の(財)日本森林林業振興会高知支部から調査結果等について説明しました。



挨拶する中山局長

これら意見については、今後のモニタリング調査の実施方法や保護林の保全・管理への反映等について検討を行うこととされています。

有識者からは、○鳥類調査等については、網羅的に行わなくともアンブレラ種としての猛禽類を対象に行えば餌を含めた生態系が見えてくる。これは、動物・昆虫類についても同じである(石鎚山)。○昆虫類調査については、調査手法を非捕獲的方法による直接観察法としているが、捕獲しないと正確に同定できない(石鎚山)。○両生類の調査も必要である(石鎚山)。○トイレが少なく、また、登山道以外への植生の踏み込みが見られ、全体としてオーバーユースになっている。保護と利用のあり方について検討すべきである(石鎚山)。○保存の対象であるビヤクシンが含まれておらず、次回からはビヤクシンを含めて調査すべきである(石立山)等の意見が出されました。

第四回高知もくもくランド二〇〇九
 親子で木に触れあい(指導普及課)

オープニングセレモニーでは、来賓挨拶として中山局長が、「地域材利用を促進していくためには、関係者が連携して取り組んでいくことが重要。当局においても、先般、設計士や消費者等



木工教室の様子

三月十四日、高知ちばさんセンターにおいて、「第四回高知もくもくランド二〇〇九」が開催されました。この催しは、県民に高知県の木造住宅の良さ、県産材の良さを知ってもらうため、木材・木造住宅関連産業が一堂に会し、多彩なイベントによりPRするもので、当局においても共催するとともに、木工教室のブースを設置しました。

「春の緑の街頭募金」
 皆さんの善意を森づくりにも有効活用します(指導普及課)



を交えた『地域材利用促進のためのシンポジウム』を開催するなどの取組を行ったところ。今回のイベントは、正に川下の関係者が一堂に会して行うものであり、盛会裏に行われることを祈念するとともに、今後も連携して取り組んでいきたい。」との挨拶を行いました。

木工教室では、壁掛け、箸置きづくりを行いました。ブースの場所が会場入口のそばであったことから、来場者が必ず通り、ほぼ終日、多くの親子連れで賑わいました。午後には、壁掛けの板が無くなってしまい、子どもたちは、残りのパーツを使って自由に作っていました。親子で木に触れ合う有意義な一日になったのではないかと考えています。

(社)高知県森と緑の会主催による「春の緑の街頭募金」が、四月十二日、高知市の中央公園及び帯屋町筋で行われました。出発式の後、中山局長、川上計画部長をはじめボランティアスタッフらが、「緑の募金にご協力をお願いします」と、大きな声で道行く人々に募金を呼びかけました。当日は、初夏のような天候で、帯屋町筋には普段以上に人通りが多い中、子どもからお年寄りまで多くの方々が足を止め、たくさんの方々が寄せられました。



春の緑の募金活動は、「緑の募金でふせごう地球温暖化」をスローガンに、五月三十一日まで行われており、いただいた募金は、水源の森林づくりや緑の少年団の育成、国際緑化事業などに活用することになっていきます。皆さんのご協力をお願いします。



三月一日、阿波市市場町大影の大影小学校跡地において阿波・吉野川両市の小学校四校の五年生百二十四名が二十班に分かれて植樹や炭焼、飯ごう炊飯など様々な体験活動に挑戦しました。当署からは三名の職員が「マイ箸作り」と「森の写真立て作り」を鳴門教育大学生と協

各地の
たより

「阿波麻植文流の森」
での自然体験会

徳島署



学、地元の方などが、自然にふれあう機会の少ない子どもたちにも様々な体験活動を通じて成長してもらおうことを目的に開催さ



力して指導しました。この催しは「とくしま森とみどりの会」吉野川地区委員会（委員長：小笠原阿波市長）が中心となっており、本年度より開催されたイベントで、県や市、教育委員会、鳴門教育大

二月二十日、小松島市立坂野幼稚園において園児二十名が木の枝と木の実を使ったオリジナル写真立て作り挑戦しました。

森の写真立て作り

徳島署

当日は天候にも恵まれ、生徒は体験活動に目を輝かせ挑戦し、怪我也無く無事に終了式を迎えました。終了式では「とても楽しかった。他校の友達もできて良かった(児童)」「現地での活動は講義や参考書に書かれたとおりに進まない難しさやもどかしさなどもあり、いい経験ができた(学生)」の感想が聞かれました。



最後に園児全員から労いの言葉と「また、来て下さい」とお見送りを受け帰路に着きました。なお、後日、園児からの心温まるお礼のお手紙を頂きました。



まず、マスケットとなる動物のクマ・イヌを作り、次に写真立ての土台・木の枝や木の

へリコプター集材を見学
香川所

二月十六日、高松市立上西小
学校の生徒が、鷹山国有林で行
われている間伐作業の現地を見
学しました。

鷹山国有林は、同小学校から
約六キロメートル上流にあり、
自然休養林に指定されるととも
に、県内唯一の大滝大川（おお
たきだいせん）県立自然公園の
中核となる区域で、森の巨人た
ち一〇〇選に選ばれた「大屋敷
のケヤキ」もあります。

同国有林では十二月中旬から
二月末までに約一、〇〇〇立方
メートルの間伐材をへリコプ
ターで集材する作業が行われる
予定で、このことを知った同小
学校から、「生徒にぜひ間伐作
業を見学させてほしい」と申し
入れがあり、森林環境教育の一



環として全
校生徒十五
名で現地見
学を行うこ
とになりま
した。
この日
は、あいに
くの曇り空
で、やや風
も吹いてい

ため、へリコプター集材が中
止になることも心配されました
が、国有林を見渡せる場所に到
着する時間には集材作業が始ま
り、生徒たちは、へリコプター
が大きな木材を吊って飛ぶ姿に
驚いていました。

その後国有林内に移動し、間
伐の必要性や、間伐材の有効利
用、環境等への配慮のため、へ
リコプターによる集材が行われ
ていることなどの説明、樹木名
等の説明を受けた後、間伐が終
了した樹齢約一〇〇年の複層林
施業地や県内で唯一のブナ林を
見学しました。

この日は、木々の先についた
水滴が凍るほどの寒さで、冬枯
れの山を歩きましたが、職員が
新緑の季節、紅葉の季節はとて
もきれいだと話すと、生徒たち
は「その頃にまた来たい」と現
地を後にしました。

屋島で植樹
香川所
ボランティア一〇〇名で植樹

二月二十二日、屋島国有林の
「源平屋島の森」で地元自治会、
ボランティア団体、屋島東小学
校の教員、児童、保護者など約
一〇〇名が参加して植樹を行
いました。



「源平屋
島の森」は、
平成十八年
に市民参加
による森林
整備を行う
ことで郷土
の森林に親
しみを持つ
てもらうこ
とを目的に
植樹を行
いましたが、
雑草の繁殖
や乾燥等で
成長が遅
れ、枯れて

しまった苗木がありました。
そのため、この日は、香川県
森林センターから提供してい
だいた抵抗性マツやクヌギなど
約一五〇本を植えました。

この日の苗木は、雑草の繁茂
に負けないよう一メートル近く
に成長したものを準備したた
め、植え穴も大きく掘らなけれ
ばならず、額に汗して、しっか
りと植えていきました。

遊々の森で植樹

屋島東小学校では、毎年「遊々
の森」で様々な森林環境学習を
行っており、二月二十六日には、
四年生三十四人が「遊々の森・
ドキドキわくわくコース」に植

樹を行いました。

この日はまず、高松森林事
務所森林官から、「森の贈り物」
の紙芝居で森林の持つ公益的
機能や森林の大切さを教わ
たあと、現地で植樹を行いま
した。

児童たちは、用意されたク
ヌギを植えるために、慣れな
い鋏を使い、一生懸命植えて
いました。植えた木の横には、
児童それぞれの思いを書き込
んだ名札が立てられ、大きく
成長することを願っていま
した。

香川森林管理事務所では、
今後も市民・県民の森として
親しまれるようボランティア
や小学校等と協力しながら屋
島の森林再生に努めていき
たいと考えています。



高知市立中野保育園で
木工教室
高知中部署

二月二十四日、高知市立中野
保育園にて年長の園児四十一名
を対象に木工クラブ教室を
実施しました。

今年の干支にちなんで、当署
があらかじめ用意した牛の置物
のキットを配ると、子どもたち
は大喜びで作品づくりにとりか
かりました。

しつぽや角、耳といった細か
いパーツをくつつけるのに苦
労する子どももいましたが、手
をポンドだらけにしながらも、
かわい牛を完成させてゆき
ました。

一時間あまりの短い時間で
したが、おかしに子どもた





三月二十一日、物部川最上流部に位置する別府山国有林にて、

ふれあいの森で

植樹体験

〈高知中部署〉



のことに興味を持ってもらえることを願っています。

ちから、元気な歌のプレゼントをもらい、クラフト作りを終えました。

この教室を通じて、子どもたちに、木のあたたかみを感じ、森林



一四〇〇本を植樹しました。

「物部川二十一世紀の森と水の会」会員のほか、高知大生や高知工科大生ら、総勢六十七名のボランティアがケヤキの苗木約

現地は事前に地拵えが出来ており、暖かい日差しの中、作業はスムーズに行われました。今回は植える苗木の数量が多かったため、ベテラン参加者をリーダーとした十人一組の班をつくり、初心者への手ほどきを行いながら作業を進めていきました。学生たちは、慣れない手つきでクワを手にしていましたが、額から汗を流しながら、一本一本に添え木をし丁寧に植えていました。

植栽した箇所は、乾燥や風害の厳しいところで、育つかどうか心配ですが、七月には下刈りも予定しており、今後の苗木の成長を見守っていききたいと思います。

シリーズ⑥ 四国局の技術開発

『天然林（森林空間利用タイプ）におけるモミ・ツガ等の天然更新技術の確立』

〈森林技術センター〉

四国森林管理局における技術開発の主な取組について、紹介します。昨年度から六回シリーズで紹介してきましたが、今回が最終回です。

【目的】

久保谷風景林は、禰原町の制定した「鎮守の森づくり条例」において後世に残すべき森として指定されていますが、「台風により、モミ・ツガ等の風倒木、枯損木が見受けられ、風景林としての機能の低下が危惧される」との町からの意見があり、現地検討会を開催した結果、「主体となる景観上重要なツガ・モミ・ヒノキは老齢木が多いため、それらの樹種の更新が必要となるが、後継樹となるような稚樹はほとんど成立していない状況では、現風景を維持していくことができ

なくなる恐れがある」とのことから、風景林としての機能（針広混交状態）維持を図るため、天然更新技術の開発に取り組んでいます。

（高知大学・（独）森林総合研究所四国支所と共同研究）

【試験地】

高知県高岡郡禰原町久保谷山

四〇四三と林小班

【試験内容】

高木のモミ・ツガ及び広葉樹により、地表に光が当たらない状態ではモミやツガなどの稚樹が発生・生育する条件が整っていないため、稚樹を発生させるための施業を検討・実施することとし、それに伴う基本データ等の収集等を行っています。

【これまでの試験結果】

試験地のモミ・ツガの稚樹



30cm程度のツガの稚樹

は大変少なく、生育している稚樹については、発生直後、若しくは発生から一〜二年程度の稚樹であり、五年を経過しているような稚樹はほとんどありません。

相対照度と稚樹の関係では、照度が低いギャップでも多く稚樹がありました。五年以上経過しているような大きな稚樹はほとんどないことから、発生後の成長には照度が大きく影響しているのではないかと考えられます。

今後は稚樹を発生・生育させるための施業を検討・実施してまいります。